

ご挨拶

まだまだ世界中の人々がコロナウィルスとの戦いで苦しんでいるさなか、ロシアによるウクライナへの侵攻という想像もしなかった悲劇に胸が痛みます。

そのような中、東日本大震災から11年の時が立ち、熊本地震からも6年が過ぎました。

6年前の熊本地震では、大庭照子館長の熊本の自宅が全壊し帰る家が無くなってしまいました。そして私が7年間生活した日本国際童謡館があった南阿蘇村をはじめとした、阿蘇の山々も報道が追いつかないほど、崩壊しました。昨秋、コロナ禍でなかなか行けなかった阿蘇に行きましたが、懐かしい景色のあちこちが未だ崩れている姿を見て複雑な気持ちになりました。

これまで大庭照子館長は熊本地震が起きた4月14日と16日にこだわって、熊本に思いを寄せて復興祈願コンサートを継続してきましたが、6年たった今年はなかなかホールが取れず開催できるか心配しておりました。ところがめぐろパーシモンホール大ホールが1日だけ空いていることがわかり、急な計画でしたがセレモニーと映画上映の開催を決めました。

目黒区は現区議会議長の小野瀬康裕様が議員のお仲間方と熊本地震の翌日から街頭募金活動をされ、すぐに熊本県にも視察と応援に行かれました。このたびの公演にもご協力をいただき、熊本への応援が出来る事を心から感謝しております。

まだ復興の歩みは続いています。山の阿蘇とともに熊本県内のもうひとつの国立公園である海の天草地方では、振り込め詐欺を題材にした映画「のさりの島」が撮影され、あらためて「のさり」という熊本特有の言葉に触れました。第二部ではこの映画「のさりの島」を上映致します。今、世界中でこの「のさり」が求められていると思います。それがなんであるのか是非、映画をご鑑賞の上受けとめていただきたいと願っています。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

NPO 法人日本国際童謡館理事長 高田真理

映画「のさりの島」

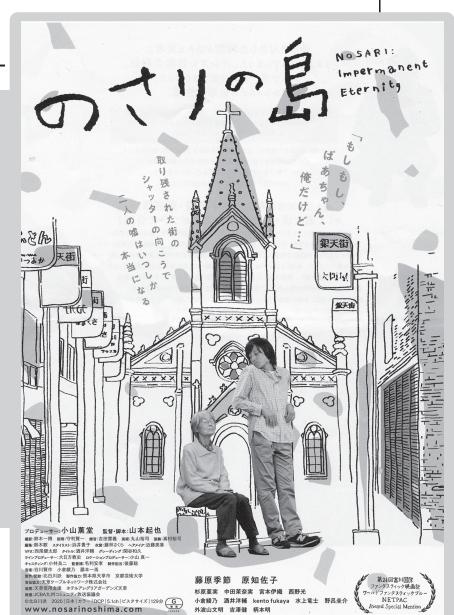
“

“のさり”とは、いいこともそうでないことも、自分の今ある全ての境遇は、天からの授かりものとして否定せずに受け入れるという、天草の優しさの原点ともいえることば。

“のさり”的風が吹く天草で、ひょんなことから生まれる奇妙でやさしい時間。

コロナ禍により人との繋がり、生き方が見直されるようになったいまだからこそ、「のさり」のやさしさ、天草の持つ人間性が心に染み渡る。“その土地に暮らす”ということの重みと、ひとの繋がり、心の交流が胸にじんわりと時を刻んでいく。

映画パンフレットより



監督・脚本：山本起也／プロデューサー：小山薰堂
出演：藤原季節、原知佐子（遺作）、柄本明 他

NPO 法人日本国際童謡館

サポート会員募集中です！

◇入会金なし・年会費：3,000円

◇サポート会員の方は、童謡館主催コンサートの参加費に会員割引が適用されます。

また、広報誌「DOYO レター」や各地でのイベント等のご案内をお送りします。

